日韓外来語史の対照研究
-「ブーム」「イメージ」「ムード」を例に-

メタデータ	言語: jpn 出版者: 明治大学大学院 公開日: 2020-03-27 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 黄, 秀智 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10291/20758

国際日本学研究論集
第11号　2020. 2

日韓外来語史の対照研究
――「ブーム」「イメージ」「ムード」を例に――

A comparative study of the history of Japanese and Korean Loanwords:
case studies of ‘‘BOOM’’ ‘‘IMAGE’’ ‘‘MOOD’’

博士後期課程　国際日本学専攻　2018年度入学
黄　　秀　智
HWANG Sooji

【論文要旨】

本研究は，1945年から1985年までの韓国新聞『東亜日報』を用いてコーパスを構築し，韓国新聞の文字数と外来語の量的推移を確認した上で，「ブーム」「イメージ」「ムード」の頻度推移と意味について日韓対照研究を行った。日本語のデータは『毎日新聞』コーパスを独自に構築し，外来語の基本語化を通時的に調査した金（2011）を参照した。金（2011）では，通年度数30以上の外来語を抽出して調査したが，韓国新聞の規模は小さいため通年度数15以上に設定し，144語を抽出した。そのうち，抽象的な意味を持つ「ブーム」「イメージ」「ムード」を考察の対象に定めた。考察の結果，次のことがわかった。

① 「ブーム」は，韓国語は〈いきなり流行する〉で使用し始め，その後〈経済関連〉での使用が増えているが，日本語は，受容初期から両方の意味を使用していたと推測される。

② 「イメージ」は，日本語の場合，「イメージする」を〈想像する，考える〉の意味として使用しているが，韓国語は「상상하다（想像する）」など，固有語や漢語で使用している。

③ 「ムード」は，日本語より韓国語の方が〈政治関連〉で使用する傾向があることや「ムード」よりは「雰囲気」を使用する傾向にあることから日韓の外来語の受け入れ方の違いがあると考えられる。

【キーワード】 外来語，日韓対照，意味の変遷，コーパス構築，通時的外来語研究

研究論集委員会　　受付日　2019年 9 月20日　　承認日　2019年10月28日

1.　はじめに

日本と韓国における外来語は，1945年以降増加し続けており，国立国語研究所の「外来語言い換え提案」や韓国の「国語醇化政策」など，日韓とも外来語の氾濫に対する様々な施策を講じるほど，外来語の急増は問題視されている。西洋語からの外来語が，同じ漢字文化圏である日本と韓国に入り，増加していくことは同じであるが，増加していく過程は日韓とも同じ傾向にあるだろうか。日韓における外来語の使用状況について，日本の方が外来語の使用が多いことが，CHANG（2016）で指摘されている。その相違点を明確にし，相違点が生じた要因を明らかにすることにより，日韓の外来語史が辿ってきた軌跡の諸相を探ることが可能になる。

日本と韓国の外来語の対照研究で取り挙げられることが多いのは，外来語表記体系，使用の実態などである。外来語史に着目し，日本語と韓国語のそれぞれにおける外来語の量的推移や通時的な意味の変化などを検討する日韓対照研究は，現段階では見当たらない。こうした通時的変遷を検討することによって，現代語における日韓の外来語の使用率の差異が何に起因するのかが明らかになるのであろう。

そこで，本稿では，まず，韓国語の外来語史を「量的・質的」に把握するためのデータを構築する。次に，構築したデータを利用して韓国語の外来語の量的推移を調査し，その結果を金（2011）により示された日本語の分析結果と照合する。最後に，日本語と韓国語の外来語がどの意味で定着するのかについて比較分析を行い，現代の日韓外来語の相違点が生じる原因を検討し，外来語史の対照研究の方向性について提示する。

2.　先行研究

日本語における外来語の研究は，韓国語に比して，比較的多くなされていると言えよう。その中でも，本研究と関わるのは，日本語の外来語の通時的な量的・質的な変化に着目した橋本（2010）と金（2011）である。

まず，橋本（2010）は，新聞社説に出現する外来語の量的推移を分析した研究である。橋本（2010）では，『朝日新聞』の1911年から2005年，および『読売新聞』の1932年から2002年を独自にコーパス化した。橋本（2010）は外来語の出現率の推移を『朝日新聞』のコーパスに基づいて分析した後，それが特定の新聞による使用傾向でないことを確認するために，『読売新聞』のコーパスを用いて検証した。その結果，1950年代後半から，外来語の使用率は大きく増加し，1970年代後半以降は停滞するという傾向があること，すなわち，日本の外来語の通時的な増加・普及過程は，「S 字カーブ」で説明できることを明らかにした。

次に，金（2011）は，20世紀後半の新聞語彙での外来語の基本語化の過程について分析した。金（2011）は，『毎日新聞』の1950年から2000年までを10年おきに収集し，各年200万字程度，全体で1,000万字を超える大規模なコーパスを構築した。その後，外来語の「増加傾向係数」を算出

し，その中から抽象的な意味を持つ外来語を選定し，それぞれの類義語の出現率や推移を確認することで，外来語がどのようにして基本語化していったのか，その過程を検討した。

一方，韓国語における外来語の研究には，YANG（2013）がある。YANG（2013）では，韓国の国立国語院が選定した「醇化語」のリストを作成し，グーグルを用いて日韓での検索件数を調査した。分析対象語302語の意味分野は社会・情報・体育が最も多いことを把握し，日本と韓国のグーグルでの検索件数を求めた上で，各上位25件を定着語，下位25件を未定着語に決め，外来語の定着に関する日韓対照研究を行った。その結果，韓国の方がインターネット関連の外来語の使用率が高いことが分かった。また，YANG（2011）では，個人で実施した韓国の外来語の意識・使用実態調査データと日本の国立国語研究所の外来語の定着度調査データを用いて日韓外来語の認知・理解・使用率について分析した。調査対象語は国立国語研究所の「定着度調査（405語）」と国立国語院の「国語醇化集合本（約21,000語）」「말다듬기」の結果をまとめ共通語168語を選定した。その中「外来語言い換手引き（176語）」に示された外来語に限定して73語を選定して分析を行い，外来語の意味の認知について考察をしている。その意味の研究はアンケート調査によるものであり，実際の用例の分析によるものではない。YANGによるこの二つの研究は，韓国語の外来語の定着にどのような社会的な背景が関わるかを検討したものであって，外来語の量的な推移や意味的な変化に関しては知見を提示していない。

次に，CHANG（2016）では，日本語と韓国語の均衡コーパスの語彙表を利用して外来語の使用率を算出している。その結果，韓国語は日本語に比べて外来語の使用が少ない傾向があることを指摘した。

以上のように，韓国語の場合は，現代語の外来語の共時的な研究や社会言語学の視点での研究が多く，歴史的に用例を考察して意味へのアプローチしていく研究は見当たらない。また，日韓の外来語史を調査するためには，まず，日本の橋本（2010）や金（2011）などの研究と比較できるデータが必要であるが，韓国語のコーパスの多くが非公開または部分公開になっているため，現段階では利用できる韓国語のデータがない。

3.　研究方法

3.1　日本語のデータ

上述の通り，本研究を遂行するために韓国語のコーパスの構築が不可欠である。本稿では，比較の対象とする日本語のデータを金（2011）に依拠するため，韓国語のコーパスの作成方法も，これに倣って進める。金（2011）は，『毎日新聞』の1950年から2000年までの記事を10年おきに収集し，コーパス化した。そのデータは以下のようである。

表１　金（2011）のデータにおける各年の文字数や外来語の延べ語数・異なり語数

年　代	1950年	1960年	1970年	1980年	1991年	2000年
全体文字数	530,678	1,161,251	2,153,286	2,131,901	1,823,274	2,332,788
延べ語数	3,930	15,738	27,425	27,543	21,897	39,378
異なり語数	996	2,043	2,782	2,699	2,545	3,286

3.2　韓国語のデータ

本研究では，戦後直後からの外来語の計量的・意味的変化を確認できる資料として，よく読まれている新聞の一つである『東亜日報』を利用して韓国語のコーパスを構築することとした。コーパス構築においては，基本的には，全ての新聞記事を対象とするが，広告，小説，詩，英語会話のテキストなどは除外する。対象年代は，金（2011）に倣い，戦後直後の1945年から10年刻みで2015年までとする。しかし，現段階ではデータができているのが1985年までであるので，今回は1985年までを対象として考察したい。構築の方法は，まず，新聞社のホームページで新聞紙面の pdf ファイルを利用し，PDF からテキストをそのままコピーしテキスト化する。なお，PDF ファイルは OCR 処理が施されているため，テキスト化が可能である。次に，テキスト化されたデータを，秀丸エディタ（ver.8.81）を用いて整理する。その後，全体文字数を確認し，金（2011）のデータと対照できるかを確認する。なお，『東亜日報』の総文字数は，年代ごとに差があるため，1 年あたり100万字前後になるようデータを作成する。最後に，外来語の抽出は目視で行う。このような流れで外来語の計量的な分析を行ったところ，以下の表 2 の通りとなった。

表２　韓国の新聞データによる各年の文字数や外来語の延べ語数・異なり語数

年　代	1945年	1955年	1965年	1975年	1985年
全体文字数	310,615	830,765	846,783	1,009,884	1,059,756
延べ語数	116	1,016	4,716	4,093	5,350
異なり語数	22	140	537	453	503

3.3　出現率・増加傾向係数の算出

外来語の個別語の分析は，金（2011）に従い「100万字当たりの外来語の出現度数」（出現度数/総文字数×10^6）を求めてから進めることにした。ただし，金（2011）では，通年度数30以上の外来語を抽出して分析を進めているが，年代別ほぼ200万字程度である金（2011）の研究に比べ，本研究の韓国語のデータは，表 2 に示す通り，約半分の規模で出現する外来語の数も少ないため，通年度数15以上にして抽出することとした。

また，増加傾向係数については，外来語の出現率を新＞古なら＋1 点，新＜古なら－1 点を与えて合計し，増減の傾向を算出する。金（2011）は，増加傾向係数を「増加，やや増加，変化なし，

やや減少，減少」の５段階に区分しているが，本稿では「増加，変化なし，減少」の３段階にまとめて分析を行う。このような方法で分析した結果は表３の通りである。

表３　増加傾向係数の３段階

区分	増減傾向	『毎日新聞』（金2011）			『東亜日報』（本稿）		
区分１	増加	＋15～＋3	440	62.77％	＋10～＋2	133	92.4％
区分２	変化なし	＋2～－2	123	17.55％	＋1～－1	6	4.2％
区分３	やや減少	－3～－15	138	19.69％	－2～－10	5	3.5％
全　　体		＋15～－15	701	100％	＋10～－10	144	100％

なお，金（2011）は『毎日新聞』の1950年から2000年までの６年間の推移から増加傾向係数を求めたため，＋15～－15の間の値をとっているが，本研究の韓国語の場合は，1945年から1985年までの10年おき，計５年間の推移であるため，＋10～10の間の値をとる。

ただし，日本語との年代別の比較分析を行う際には，韓国語のデータの規模と合わせる必要がある。そこで，本稿では，調査対象年代に数年のずれはあるが，金（2011）のデータの中の1950年，60年，70年，80年，91年の５年間のデータと，本研究の45年，55年，65年，75年，85年の５年間のデータとの間で，比較，分析を進めていく。

3.4　意味変化の分析

意味分析の方法は，本研究では，「辞書」の意味記述や用例，および実際のコーパスでの用例に基づいて進める。日本語の辞書的意味は，主に『広辞苑』に依拠するが，『日本国語大辞典』，『大辞林』，『デジタル大辞泉』も参照し，確認する。同様に，韓国語は『標準国語大辞典』を利用し，さらに『高麗大韓国語大辞典』，『우리말샘（URIMALSAM）』，『ヨンセ韓国語辞書』も参照する。

コーパスの用例は，日本語については金（2011）の新聞コーパスが現段階では利用不可であるため，代替となるコーパスとして「現代日本語書き言葉均衡コーパス（以下，BCCWJ）」，「新聞」（『読売新聞』の検索システムの「ヨミダス歴史館」[1]），改まった場面での音声言語である「国会会議録」（ひまわり『国会会議録』パッケージの本会議録（1947年～2012年））を対象とする。なお，「国会会議録」を利用するのは，新聞の用例だけでは数が不十分だからである。同様に，韓国語は，セゾンコーパス（ver.2010年配布）を利用した検索システムである「꼬꼬마（KKMA）」，および国会会議録検索システム（1948年～2012年）の本会議録を利用する。

[1] 金（2011）のデータは，『毎日新聞』を利用しているが，『毎日新聞』の検索システム「毎索」では全ての用例の確認ができないため，『読売新聞』の「ヨミダス歴史館」を利用することとした。

4.　計量的分析

表４　1945年から1985年までの韓国新聞推移

	1945年		1955年	1965年		1975年	1985年
ページ数	2	4	4	4	8	8	12
日数	28日	3日	31日	18日	8日	17日	17日
文字数	310,615		830,765	846,783		1,009,884	1,059,756
外来語（異なり語数）	22		140	537		453	503
ジャンル	総合，社会，政治，経済，文化		総合，社会，政治，文化，経済，スポーツ	総合，社会，政治，文化，経済，スポーツ，科学			

表４は，1945年から1985年までの『東亜日報』の量的推移である。文字数は，紙面の数が少ない1945年を除けば，３節でも述べたようにほぼ100万字前後となる。1945年は戦後直後であるため宣言文や国際ニュースなど社会関連の記事が多く「ニュース」や「テロ」の出現が最も多い。また，この時期は一般名詞の外来語より，人の名前や地域などの固有名詞の外来語が多い。

表５　一万字あたりの外来語の出現率推移

年　代	1945年	1955年	1965年	1975年	1985年
全体文字数	310,615	830,765	846,783	1,009,884	1,059,756
延べ語数	116	1,016	4,716	4,093	5,350
異なり語数	22	140	537	453	503
外来語出現率	3.73	12.23	55.69	40.53	50.48

表５中の「外来語出現率」とは，1万字当たりの外来語の出現度数を，出現度数/総文字数×10^4で算出したものである。これを見ると，1965年の出現率が特に高いが，その理由の一つとして，韓国政府からスポーツ産業への投資の影響を挙げられる。KIM ほか（2012）によると，1964年から韓国の政府ではスポーツの重要性を強調するため，スポーツ科学を導入したと述べている。その背景により，1965年のスポーツ面の記事は外国のスポーツニュースをそのまま直訳したような不自然な文章が多く，それに伴い「フリーキック」「ミドル」「シュート」などの外来語の使用も増えるようになる。しかし，1975年からは，スポーツの専門用語の直訳の使用が減り，記事の内容も改まっていくため，スポーツ面での外来語の使用も安定していくと思われる。このような一時的な現象を除けば，韓国新聞での外来語の出現率も日本語と同様に徐々に増加していくと説明できる。

3.3節で述べたように，個別語の分析において，外来語の出現率を計算し増加傾向係数を算出して分析対象語を選定した。通年度数15以上の144語の中，増加傾向係数が高い順番に並び替え，増加傾向（＋10～＋2）に該当する133語を選定する。その中，「アパート」「セット」のように具象

的な指示対象がある語やスポーツの専門用語などの外来語を除き，抽象的意味を持つ語の中で「ブーム」「イメージ」「ムード」を選び分析を進めた。日本語のデータは全て金（2011）に依拠し，個別語の出現率を日韓対照すると以下のようである。

表 6　「ブーム」「イメージ」「ムード」の出現率や増加傾向係数

	日　本	1950	1960	1970	1980	1991	増加傾向係数
	韓　国	1945	1955	1965	1975	1985	
(1)	「ブーム」	0.0	45.64	34.37	10.79	20.84	0（変化なし）
	「붐」	0.0	2.41	18.9	19.8	22.65	8（増加）
(2)	「イメージ」	0.0	1.72	24.15	24.86	27.97	10（増加）
	「이미지」	0.0	0.0	1.18	8.91	10.38	9（増加）
(3)	「ムード」	0.0	12.06	26.94	26.74	14.26	4（増加）
	「무드」	0.0	0.0	15.35	7.92	5.66	3（増加）

表 6 の「ブーム」の増加傾向を見ると，日本語は変化なし，韓国語は増加傾向である。韓国は1965年から急増するのに対して，日本は1960年の出現率が最も高く，それ以来，徐々に減少，1991年にはまた増加する傾向にあることが分かる。

「イメージ」は日韓とも増加傾向にある。日本の場合，1960年に出現して1970年には急増，それ以来は少しずつ増加している。日本の1991年と韓国の1985年の出現率を見ると，約 3 倍程度の差はあるが，韓国語の場合，1965年に出現して徐々に増加していくという傾向は日本と同じであると言える。

「ムード」は，日本語の場合，1960年から1980年までは増加するが，1980年から1991年にかけ，出現率が半分近く減少していることが分かる。韓国語の場合，1965年の出現率が最も高く1985年までは減少していて「イメージ」と同じく1991年（日）と1985年（韓）を比較すると，韓国語の出現率は日本語の出現率より約 3 倍程度低いことが分かる。

日韓の間では，同じ外来語においても使用し始めた時期の違いや外来語の出現率など通時的な量的変化の推移には相違点があることが分かる。次節以降では日韓の外来語の意味用法について考察する。

5.　意味的分析

5.1 「ブーム」

5.1.1　日本語おける「ブーム」の意味用法

「ブーム」の日本語辞書の意味を確認してみると，『広辞苑』では「景気循環における好況局面。にわかに需要が増大し，物価が急騰すること。にわか景気。」，「ある物事がにわかに盛んになるこ

と。」と記述されている。『広辞苑』以外の辞書（『日本国語大辞典」，『大辞林』，『デジタル大辞泉』）も確認したが，同様に「（経済関連）景気が良くなる様」，「急激に盛んになること」の二つの意味が記載されている。新聞用例を用いて，実際使用されている意味用法を確認すると，日本語の意味は〈①景気循環における好況局面。経済状況などの良くなるさま〉〈②いきなり流行する/盛んになること〉で整理できる。以下の例文は（1）と（3）は〈①〉の意味で，（2）と（4）は〈②〉の意味で使用されていることがわかる。

（1）　大きな消費ブームが，年末に展開される。　〔読売新聞，1960年〕
（2）　だっこちゃん。信じられないブーム。　〔読売新聞，1960年〕
（3）　省力化を目ざす…今回の設備投資ブームの特徴だ。　〔読売新聞，1980年〕
（4）　海外旅行ブームにかげり。　〔読売新聞，1980年〕

5.1.2　韓国語における「붐（ブーム）」の意味用法

『표준국어대사전（標準国語大辞典）』では，「어떤　사회　현상이　갑작스레　유행하거나　번성하는　일（ある社会現象がいきなり流行したり盛んになること）」と記述されている。この他の辞書（『高麗大韓国語大辞典』，『우리말샘（URIMALSAM）』，『ヨンセ韓国語辞書』）でも確認したが，韓国語の「ブーム」は日本語とは少し異なり〈ある傾向，ある社会現象がいきなり盛んになること〉の意味だけを有している。

（5）　요즘　日本展붐이　일고　있는듯한　感을　갖게　하지만…
（最近日本展ブームが巻き起こっているような気がするが…）　〔東亜日報，1965年〕
（6）　올해　車씨의　작품　不毛地를　공연，2 전 7 백여명의　관람객을　기록，연극붐을　이뤄가고　있는　것　같다고…
（今年，車さんの作品「不毛地」を公演，2 千 7 百名の観覧客を記録，演劇ブームになっているようで…）　〔東亜日報，1985年〕
（7）　적어도　1 億 5 千萬弗以上이　순전히　建設投資에　쓰일것이고，그것이　큰　붐을　일으칼　것　같다
（少なくとも 1 億 5 千万弗以上が建設投資に使用され，それが，大きなブームを巻き起こすことになるでしょう。）　〔東亜日報，1965年〕
（8）　복덕방에서　시작해　부동산붐을　타고　일약　재벌대열에　뛰어들려던…
（小さな不動産から始め，不動産ブームに乗り，財閥になろうとした）〔東亜日報，1985年〕

韓国の新聞用例をみると，（5）と（6）のように「ある社会現象がいきなり流行したり盛んになる」の意味として使用している。また，（7）と（8）のように辞書には記述されていないが，日本

語と同様に経済関連の意味としても使用されていることが分かる。

以上のコーパスの用例からは，「ブーム」の意味を日韓とも〈①景気循環における好況局面。経済状況などの良くなるさま〉〈②いきなり流行する/盛んになること〉の意味で整理することができる。

5.1.3 「ブーム」の意味用法の日韓比較

『東亜日報』における「ブーム」の用例を〈①景気循環における好況局面。経済状況などの良くなるさま〉〈②いきなり流行する/盛んになること〉で分けてその数を見ると，以下のようである。

表7 『東亜日報』における「붐」（ブーム）の用例の意味分類

	意　　味	1945	1955	1965	1975	1985
「붐」（ブーム）の用例数	①経済状況などの良くなる	—	—	2	5	4
	②いきなり流行する・盛んになること	—	2	14	15	20

用例の数は少ないが，最初は〈②〉の意味だけを使用していたが，1965年から〈①〉の用例が増えていることが分かる。日本語の場合，『読売新聞』の「ヨミダス歴史館」で用例を確認して見ると「現在の輸出ブームを支えている海運市況の異常なブームも（1955年）」「現在のブームの推進力となっているのは消費と事業投資の二つで（1955年）」などの用例が確認できる。ここからも分かるよう，韓国語は経済関連の現象よりは，ある社会現象・ある傾向・ある事業が急激に良くなることを意味する語として用いたが，それが経済関連の〈①〉の意味も表すようになったのに対し，日本語は受容初期から〈①〉〈②〉の両方の意味としての「ブーム」を使用していたと推測される。

5.2 「イメージ」

5.2.1 日本語における「イメージ」の意味用法

『広辞苑』では「イメージ」の意味を「心の中に思い浮かべる像。全体的な印象。心象」「姿。形象。映像」のように記述している。

(9) 文学的なイメージが発想の根拠となり，〔読売新聞，1960年〕

(10) 社会党に対するイメージが，ここ数年急激に…〔読売新聞，1970年〕

(11)「明るい自由」のイメージは？〔読売新聞，1980年〕

(12) これによる住民に対する具体的な影響についてどのようにイメージされているのか，わかりやすくお答えください。〔国会会議録，2012年〕

(13) 私のイメージする高杉晋作という人はかなり大ぶろしきを広げる人であったと，こんなふうにも思っております。〔国会会議録，2010年〕

（9）～（11）の例文は「心の中に思い浮かべる像。全体的な印象。心象」の意味であり，この他の例文でも「姿。形象。映像」意味を持つ用例はほとんど見当たらなかった。そこで，国会会議録での用例を検索した結果，（12），（13）の「イメージする」のように「想像する，考える」に置き換え可能な動詞用法として使用する場合もあることを確認した。以上のように，新聞用例や国会会議録を用いて，実際使用されている意味用法を確認すると，日本語の意味は〈①心の中に思い浮かべる全体的な印象〉〈②姿。形象。映像〉〈③想像する，考える〉で整理できる。

5.2.2　韓国語における「이미지（イメージ）」の意味用法

『표준국어대사전（標準国語大辞典）』の意味は「문학＝감각에　의하여　획득한　현상이　마음속에서　재생된것（文学＝感覚により獲得した現象が心の中でリプレーされたもの）」「어떤　사람이나　사물로부터　받는　느낌（ある人や物から受ける感じ）」である。日本語の意味と比較して見ると，日韓とも辞書的記述はほぼ同じであると言えよう。

（14）새韓日의　이미지를　완전히　옛날의　그것과　같게　만들지도　모를…
（新しい韓日のイメージを完全に昔のそれと同じようにするかも知れない…）
〔東亜日報，1965年〕

（15）여당의　정치역량과　이미지를　산정하는데　있어　커다란　마이너스요인이라고…
（与党の政治力量やイメージを算定することに，大きなマイナス要因であろうと…）
〔東亜日報，1985年〕

（16）현대사　단원　첫페이지에　나오는　이미지　화면입니다.
（現代史の最初のページに載せられているイメージ画面です。）　〔国会会議録，2015年〕

（17）산업현장을　시찰하는　매우　긍정적인　이미지의　사진으로　바뀌었습니다.
（産業現場を視察する，すごくポジティブなイメージの写真に代わりました。）
〔韓国会会議録，2016年〕

（14），（15）の例文は韓国語辞書の「ある人や物から受ける感じ」の意味ではなく，日本語の意味の「姿。形象。映像」として使用していることが分かる。

以上のコーパスの用例から，日本語と韓国語の「イメージ」の意味を〈①心の中に思い浮かべる全体的な印象〉〈②姿。形象。映像〉〈③ある人や物から受ける感じ〉〈④想像する，考える〉ので整理することができる。

表８　『東亜日報』における「이미지」（イメージ）の用例の意味分類

	意　　味	1945	1955	1965	1975	1985
「이미지」（イメージ）の用例数	①心の中に思い浮かべる全体的な印象	—	—	—	1	–
	②姿。形象。映像	—	—	—	2	2
	③ある人や物から受ける感じ	—	—	1	6	9
	④想像する，考える	—	—	—	—	—

『東亜日報』における「이미지」（イメージ）の用例を分類すると，表８のようである。韓国語の場合，最初は〈③〉の意味で，その後も〈③〉の意味を最も多く使用していることが分かる。1975年の〈①〉の意味の用例は，「특히　그의詩의　특징은　한국의山河와　人情에　깊은　애정을　가지고　이를　강한　리듬과　이미지로　부각하는　정상이라　하겠다。（特に，彼の詩の特徴は韓国の山河と人情に深い愛情を持ち，これを強いリズムとイメージで浮彫される真心だと言える），東亜日報」，1985年の〈②〉の意味の用例は「최신　컴퓨터에　영상을　넣어　처리한　변형된　이미지（最新パソコンに映像を入れ処理した変形したイメージで…），東亜日報」などが出現した。〈②〉の意味は，用例（16），（17）のように2015年以降の国会会議録でも出現する。

『The Oxford English dictionary』によると「イメージ」には，「a picture of someone or something seen in a mirror, through a camera, or on a television or computer（鏡やカメラ，又はテレビやコンピューターから見る人や物の写真）」という意味がある。この英語の意味は，韓国語の辞書には記述されていないが，日本語の「姿。形象。映像」に相当する意味であると考えられ，用例からも分かるように，このような名詞用法としての「イメージ」も，韓国語で使用されていることが分かる。

5.2.3 「イメージ」の意味用法の日韓比較

日本語の「イメージ」は，上で論じたように，名詞としての意味の他にサ変動詞としての用法がある。（12）と（13）の例文を見ると，「イメージする」の形式で使用されたものの，これを韓国語に直訳すると不自然な文になるため，「이미지하다（イメージする）」ではなく，「상상하다（想像する）・생각하다（考える）」に訳される。英語の「image」の動詞の意味は「Make a representation of the external form of（～の外形を表す）」であるが，その中の「Form a mental picture or idea of（心の中の象や考えを形成する～）」が日本語の「イメージする」に該当すると考えられる。一方，韓国語の「イメージ」は〈人を見て感じた印象・感じ〉や〈個人・機関・商品などが大衆に与える印象〉など名詞用法の意味で主に使用されており，「이미지하다（イメージする）」の形式は『東亜日報』の用例21件や国会会議録の278件の中では見当たらなかった。韓国語の場合，「Make a representation of the external form of」という動詞用法は「형상하다（形象する）」，「나타내다（表す）」，「상징하다（象徴する）」「상상하다（想像する）」など，固有語や漢語で使用していると

考えられる。

5.3 「ムード」

5.3.1 日本語における「ムード」の意味用法

『広辞苑』での「ムード」の意味は「気分。情調。雰囲気。」「文法，mood」であり，新聞用例を確認して見ると，日本語の「ムード」の意味は〈①気分。情調。雰囲気。〉〈②特定ジャンル（政治関連）での雰囲気・気分〉で整理できる。以下の例文の（18）は〈②〉，（19）と（20）は〈①〉の意味で使用されている。

（18）わが国に中立主義のムードが広く一般に存在すること…　〔読売新聞，1960年〕
（19）盛り上がる対決ムード/一瞬の印象と楽しいムード　〔読売新聞，1970年〕
（20）各選手は黒髪をなびかせて登場し，華やかなムードのうちにキックオフ。
〔読売新聞，1991年〕

5.3.2 韓国語における「무드（ムード）」の意味用法

『표준국어대사전（標準国語大辞典）』は，「어떤　상황에서　대체적으로　느껴지는　분위기나　기분（ある状況から大体感じられる雰囲気や気分）」「철학：삼단논법을　구성하는　명제에　따라　변하는　식．또는　그런　방법（哲学：三段論法を構成する命題によって変わる式，又はその方法）」「언어，서법（言語：敍法）」である。専門用語としての意味を除けば，日韓とも同じ意味として使用していることが分かる。

（21）議会の保護主義ムードが韓国に集中されているためであろうと…　〔東亜日報，1955年〕
（22）韓国ソウルにもクリスマスのムードは今こそ熟していると考えられる。
〔東亜日報，1965年〕
（23）今年７月からもはや祭りムードになり/安保ムードが高くなり　〔東亜日報，1975年〕

以上のコーパスの用例から，日本語と韓国語の「ムード」の意味を〈①気分。情調。雰囲気。〉〈②特定ジャンル（政治関連）での雰囲気・気分〉で整理することができる。

表９　『東亜日報』における「무드」（ムード）の用例の意味分類

	意　　味	1945	1955	1965	1975	1985
「무드」（ムード）の用例数	①気分。情調。雰囲気	—	—	7	5	—
	②政治関連での雰囲気・気分	—	—	8	3	6

韓国語の「ムード」は，最初は〈①〉〈②〉の両方の意味で使用していたが，1985年には出現する例文の全てが〈②政治関連でのその雰囲気〉として使用している。『東亜日報』での用例数が少ないため，国会会議録を用いて用例を検索したところ，「南北対話ムードで内政のすべての（1985年）」「新しい政治ムードを作るための（1964年）」のように，全84件の中，2 件を除いて全てが「政治関連」として使用していることを確認した。日本の国会会議録でも，「両社の話し合い，平和ムードを作ることを（1965年）」「友好ムードいっぱいの関係となり（1981年）」など〈②〉をよく使用していたが，新聞の用例を見ると，「上野の町はお祝いムード一色（読売新聞，1985年）」「夏の CM はこぞってトロピカルムードだが（読売新聞，1985年）」のように〈①〉の「ムード」と〈②〉の「ムード」両方とも使用していることがわかる。

5.3.3 「ムード」の意味用法の日韓比較

以上のことから，日韓の「ムード」の意味は，ほぼ同じであろうと言えるが，次の例を見てみよう。

（24）一通り挨拶や乾杯が進み，会場も笑顔と和やかなムードのうちにフィナーレとなり，

〔国会会議録，2012年〕

（24）の「ムード」は，そのまま韓国語で訳すと不自然な文になり，「雰囲気」に訳せば，文は成立する。このような違いが生じる原因を把握するために，まず，「ムード」の意味と「雰囲気」の意味を確認する必要がある。『표준국어대사전（準国語大辞典）』の「무드（ムード）」は，「어떤 상황에서　대체적으로　느껴지는　분위기나　기분（ある状況から大体感じられる雰囲気や気分）」，「분위기（雰囲気）」は全て 6 つの意味の中，専門用語を除き，「1. 지구를　둘러싸고　있는 기체（地球を取り巻く気体）」「2. 그　자리나　장면에서　느껴지는　기분（その場や場面で感じられる気分）」「3. 주위를　둘러싸고　있는　상황이나　환경（周りを囲んでいる状況や環境）」「4. 어떤　사람이나　사물이　지니는　독특한　느낌（ある人や物が持っている独特な感じ）」「5. 어떤　시대에　자연스럽게　만들어진　사회적인　여론의　흐름（ある時代に自然に作られた社会的な世論の流れ）」である。韓国語の「雰囲気」は「空間，環境など周りの雰囲気・空気」を表す語になるため，会場という空間とその周りの空気を指すものである（24）の例文は，「ムード」ではなく「雰囲気」に訳した方が自然になると考えられる。

（24′）一通り挨拶や乾杯が進み，会場も笑顔と和やかな雰囲気のうちにフィナーレとなり，

日本語の「雰囲気」は『広辞苑』で「地球をとりまく気体。大気。空気。」「その場面またはそこにいる人たちの間にある一般的な気分・空気。周囲にある，或る感じ。ムード」で記述している。

内容としては，韓国語の「雰囲気」とほぼ同じ意味であるが，韓国語の方がより詳細に分類されていて，日本語の「雰囲気」は「ムード」と同じ意味であると記述されているのに対し，韓国語の場合，「ムード」は「雰囲気」と同じ意味であるが，「雰囲気」の場合は「ムード」と同じであるという記述がないことからも，日韓の「ムード」の使用状況や意味用法の変化には，外来語の使用に対する日韓の受け入れ方の違いがあるのではないかと考えられる。

6. まとめ

以上，1945年から1985年までの韓国新聞コーパスを作成して韓国語の外来語の量的推移を確認し，個別語の意味分析を行い日韓外来語の意味変遷について考察した。その内容を整理すると以下のようである。

①「ブーム」: 日本語の「ブーム」は1960年の出現率が最も高く，1970年と1980年には減少して1991年にはまた増加する傾向にある。韓国語の場合は，1975年の出現率が最も高く，1985年に減少する傾向にあるが，最初に出現する1955年から推移を見るとある程度増加していると言える。辞書的意味は，日本語の方が韓国語辞書より詳細に記述されているが，用例を分析した結果，日韓ともほぼ同じ意味として使用されていることが確認された。また，用例分析の結果，韓国語は最初は〈①ある社会現象などが急激に良くなること〉を意味する語として用いたが，〈②経済関連の意味〉も表すようになったのに対し，日本語は受容初期から両方の意味としての「ブーム」を使用していたと推測される。

②「イメージ」:「イメージ」は日韓とも増加傾向にあるが，韓国語の使用率は日本語の半分程度である。また，日本語は1960年から出現するのに対し，韓国語は1965年から少しずつ増加していることが分かる。意味分析では，日韓ともほぼ同じ意味として使用されているが，韓国語は一般に〈③ある人や物から受ける感じ〉の意味を使用されており，〈①心の中に思い浮かべる全体的な印象〉〈②姿。形象。映像〉の使用は少ない。また，〈④想像する，考える〉の使用は見当たらなく，〈④〉の意味は固有語や漢語で使用している。日本語は〈①〉～〈④〉の意味を全て使用されていることが確認されたが，これは，外来語を受容する時，韓国は既存語と意味を分担して受容したと言えるが，日本は既存語があるにも関わらず外来語に多くの意味を与えたと説明できる。

③「ムード」: 日韓とも増加傾向にあるが，日本は1991年に減少，韓国は1975年から減少していることが分かる。辞書的意味は，日韓とも〈①気分。情調。雰囲気。〉〈②特定ジャンル（政治関連）での雰囲気・気分〉で同じであるが，用例を確認して見ると，日本語より韓国語の方は〈②〉の意味で使用する傾向があることが確認された。また，韓国語の場合，「ムード」は「雰囲気」と同じ意味であると記述されているが，「雰囲気」の場合は「ムード」と同じであるという記述がないことから，外来語よりは固有語や漢語の使用を指向する傾向にあると考えられる。

以上をまとめると，日韓の外来語の量的変化や意味変化において違いが生じる原因を，①日本の方が積極的に外来語を受け入れ，受容時期も韓国より早い，②受容後に自国語として定着して行く

過程で外来語の意味が変化する，③日本の方の意味領域が広い，などで整理できる。今回の三つの語を含め，他の語についても考察を進めると，より明確になると考えられる。

7. 課　題

今回のデータは1945年から1985年までであり，インターネットが普及し外来語の使用が増えるようになる1990年代以降のデータが含まれていない。そのため，1945年から現在に至るまでの調査はできなかったが，その時代の調査を行うことが必要である。また，今回は韓国語の方だけを，意味分類別の頻度を示しているが，日韓の外来語の意味の変遷の実態を明確にするためには，日本語の用例の意味別の頻度調査も必要である。なお，「ムード」のように，外来語よりは固有語や漢語への使用を指向している場合，両国の外来語に関する国語政策が外来語の普及や使用に与える影響や外来語に対する認識調査の整理など社会的背景を確認する必要があるが，これらについては，今後の課題としたい。

参考文献

国立国語研究所（1990）『日本語教育指導参考書16外來語の形成とその教育』東京：大蔵省印刷局，pp. 6–7.

橋本和佳（2010）『現代日本語における外来語の量的推移に関する研究』ひつじ研究叢書（言語編）第86巻.

金愛蘭（2011）「20世紀後半の新聞語彙における外来語の基本語化」『阪大日本語研究』別冊 3.

YANG MINHO（2011）「外来語の認知，理解，使用率に関する日韓対照研究」『国際学論叢』15, pp. 55–77.

———（2013）「外来語定着過程に関する日韓対照研究―グーグル検索エンジンを用いて―」『日本語文学』59, pp. 199–218.

KIM SEJUNG（1998）「外来語の概念と変遷史」『セ国語生活』第 8 券，2, pp. 5–19.

CHOI YONGKI（2003）『国語純化資料集合本』ソウル：国立国語研究院.

JUNG YEONCHANG ほか（2005）「英語が韓国語に与えた言語文化的影響に関する通時的研究」『セハン英語英文学』第47券 1, pp. 185–225.

HONG JOUNGHA（2012）「新聞テキストタイプの通時的変化―接続副詞使用推移の統計分析を中心に」『韓国語学』56, pp. 275–315.

CHOI JEAWOONG・LEE DOGIL（2014）「Trends21コーパス：公開ウェブ資源及び活用道具」民族文化研究院，民族文化研究，64, pp. 3–23.

LEE YOUNGJAE・KANG BUMMO（2014）「現代国語歴史コーパスを利用した言語変化の計量的研究―仮称〈東亜日報歴史コーパス〉に基づく接続副詞使用分析を中心に―」『韓国学』63, pp. 267–303.

CHANG WONJAE（2016）「日韓両国語の漢語及び外来語の分類や特徴」『日本語文学会』73, pp. 137–158.

KIM MISUK・NAMGUNG YOUNGHO（2012）「1960年代以降韓国スポーツ科学の発展様相」『韓国体育社会学紙』17–3, pp. 65–80.

関連 URL

KoNLPy, https://konlpy-ko.readthedocs.io/ko/v0.5.1/

ヨミダス歴史館，https://database.yomiuri.co.jp/about/rekishikan/

韓国民族文化大白科辞典，http://encykorea.aks.ac.kr/

現代日本語書き言葉均衡コーパス，https://pj.ninjal.ac.jp/corpus_center/bccwj/

KKMA, http://kkma.snu.ac.kr/

Oxford dictionary, https://www.lexico.com/en

ヨンセ韓国語辞書，https://ilis.yonsei.ac.kr/dic/
標準国語大辞典，https://stdict.korean.go.kr/search/searchDetailWords.do
高麗大韓国語大辞典，URIMALSAM, https://dict.naver.com/
デジタル大辞泉，大辞林，https://kotobank.jp/word/
広辞苑，https://sakura-paris.org/dict/
日本国語大辞典，https://japanknowledge.com/library/